

平成30年度第1回青梅市行財政改革推進委員会議事概要

1 日時

平成30年7月30日（月） 午後1時58分から午後3時25分

2 場所

青梅市役所 議会棟3階 第3委員会室

3 出席者

[出席委員]

菊池 一夫委員	水村 美穂子委員	川合 純委員
原島 正之委員	山中 眞一郎委員	土屋 喜夫委員
大住 修司委員	鳥居塚 卓委員	

[出席青梅市職員]

浜中青梅市長以下10名

4 議事概要

- (1) 市長あいさつ
- (2) 委員長あいさつ
- (3) 異動職員紹介
- (4) 議題

ア 青梅市行財政改革推進プラン（平成30年度改定版）取組状況について

【財政課長説明】

・行革プラン・平成29年度の取組状況の説明。意見交換。

イ 青梅市行財政改革推進委員会・平成30年度運営方法について

【財政課長説明】

・今年度の委員会の進め方について説明。意見交換。

ウ 青梅市行財政改革推進プラン（平成25年度～平成29年度）取組状況に対する
検証事業の選定について

【財政課長説明】

・今年度の検証事業について、委員間で協議した結果、以下のとおり決定。

【第2回委員会検証項目】「No. 20 地域防災計画等の見直し」

【第3回委員会検証項目】「No. 1 市民サービスの向上」※

※「市民サービス」を広義に捉え、複数事業を検証。検証対象項目の詳細は、
第2回委員会において決定。

- (5) その他

【財政課長説明】

・次回委員会で検証する事業に対する質問について、8月31日（火）までに事務局
に提出することとする。

・次回委員会は、平成30年9月下旬に開催予定。

5 主な質疑・意見等

○青梅市行財政改革推進プラン（平成30年度改定版）取組状況について

《質疑》

- [Q] B評価が、全体の36.3%と多い気がするが、全体としてどう判断したのか。また、その中で、改善した結果、C評価から上がったものはどれだけあるのか。
- [A] 各取組で掲げている到達目標の設定レベルが、事業によりまちまちな部分があり、より高く掲げているものとそうでないものがあるなど、全体のバランスが取れていない状況である。この点については見直しの必要があると思うが、目標を高く掲げた事業が、比較的到達できていない状況となり、B評価となったものと認識している。
- また、C評価からB評価へ上がったものについては、2項目（No.24・地域防災計画等の見直しおよびNo.32・経常収支比率の改善）である。
- [Q] No.41・競艇事業収益金の確保については、大分改善されているが、その理由は。
- [A] 多摩川競艇場内に、外向き発売所という多摩川競艇以外で行っているレースについて購入できる施設を、昨年10月に新たに開設した。そのため、売上が大幅に増えているという状況が一番の影響である。
- [Q] 競艇事業の売上の向上が、経常収支比率改善の原因のひとつになっているのか。
- [A] 競艇事業の収入については、臨時的収入であるため影響していない。改善の主な要因については、市税収入の伸びと人件費の圧縮である。
- [Q] No.20・地域防災計画等の見直しについては、到達目標の見方によっては到達されているようにも見えるし、何が到達していないのかが分かりにくい。
- [A] 到達目標②については、「業務継続計画の修正と訓練の実施」としているが、この中で訓練の実施という部分については達成できたものの、業務継続計画の修正というところまでは至らなかったため、B評価としている。
- [Q] No.25・適正な定員管理の推進について、到達目標に再任用職員とあるが、どういう取扱いか。目標に入れるべきものなのか。正規職員については、目標があって減らしていくのは理解できるが、再任用職員については、取扱いが微妙だと思う。
- [A] 再任用職員については、週5日のフルタイム勤務や週4日勤務など、様々な勤務形態があるが、本来ならば、例えば週4日勤務であれば0.8人と換算し、正規職員と合わせて全体で何人いるのかという表記の方が適切であったと考える。今後は実態に合わせた表記に改めていくこととしたい。

○青梅市行財政改革推進委員会・平成30年度運営方法について

《質疑》

- [Q] 行革委員会の議題は、行革プランの検証だけなのか。それ以外の時機に応じた質問や議題についても取り上げられるのか。
- [A] 他の議題を取り上げることも可能。
- [Q] 委員会の検討方法として、市が上げた問題点の中から選んで行うということであるが、市民レベルで問題とを感じる問題点の検討を行うことは可能なのか。

- [A] 基本的には、行財政改革推進プランの中に掲げてある項目の中から選んでいただきたいという提案であるが、それ以外に検証すべき項目があるということであれば、委員間で協議いただき、全体の総意としてまとめたものであれば、検証作業に加えることは可能。
- [Q] 一般の市民が考える問題と行政が考える問題は違う。市民の考える問題は細かなものになってしまうため、それらを議題に上げるには、委員間で行財政改革にふさわしいものであるかとの検討を別に行ったうえで上げるのか。また、それらを上げた場合、後で市の方で検討するのか。
- [A] 市としては、まずは行革推進プランの取組項目に対する検証をお願いするが、その他に、各委員が持っている意見の中で、別途取り上げたいものがあるのであれば、毎回「その他」の中で、委員間で協議いただき、次回取り上げるかどうかを判断していただきたい。取り上げるとした場合については、その後の委員会で、事務局から説明させていただく。

○青梅市行財政改革推進プラン（平成25年度～平成29年度）取組状況に対する検証事業の選定について

《質疑・意見》

- [観] 今、地元自治会で問題となっているのが、防災対策と高齢化、空き家問題である。これらは、自治会では対応できない問題であり、大変重要な問題である。
- [Q] 取組項目の中にある「地域防災計画等の見直し」については、「消防活動上の支障の排除」が項目となっているが、消防だけではなく、例えば、ゲリラ豪雨対策や救助といったものも含むという解釈でよいか。
- [A] 検証対象を、防災全般と広く取り上げていくことは問題ない。
- [Q] 条例で、空き家などに対する市独自の対応というのは、どこまで可能なのか。また、空き家問題を検証議題としたい場合、どの項目を選定したらよいか。
- [A] 空き家条例については、現時点では制定しておらず、担当課において、他市の状況を調査している段階である。また、その問題を取り上げる場合、広い意味での「市民サービスの向上」として取り上げることは可能。
- [観] 広域的な連携は、今後重要になってくるものと考えている。
- [Q] 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた取組を検証することは可能か。
- [A] 「広域的な連携の推進」の中で、一つのテーマとして、オリンピック・パラリンピックに向けた西多摩地域の連携についての取組を行っている。
- [Q] 観光も重要なテーマと考えるが、オリンピック同様、広域的な連携の中に含むことは可能か。
- [A] 可能である。
- [Q] 広域的な連携は、どう捉えるべきか。
- [A] 西多摩8市町村で、「西多摩地域広域行政圏協議会」を組織しており、その中で様々な課題に連携した取組を検討しており、その中では、観光振興も一つのテーマとして

いる。

広域圏の組織の中で、それぞれの所管部署の部会を設けており、観光も部会を設けている。また、高齢化対応という意味では、介護と医療の連携などについても、重点課題として捉えているなど、かなり広い範囲で広域連携の守備範囲を設けている実情がある。

[観] 昨年も検証項目に取り上げたが、青梅市の財政を健全なものにするには、経常収支比率の改善が大変大事である。防災の問題や観光の問題などは、市がやるべき行政課題のため、本来、それらが第一と考えるが、何をやるにもお金が掛かるため、どうやって収入を増やすか、どうやって支出を減らすかという点からも、「経常収支比率の改善」を取り上げたい。

[Q] 庁内各課において、高齢者関係の連絡会を開催しているが、集まるメンバーや議題は皆同じであるなど、連絡会の開催方法に問題があると考え。また、専門家を集めて行っている連絡会の効果が、ほとんど見えない状況である。それを踏まえ、効果のある連絡会をいかにやっていくかという内容の議論が、かなり重要と考える。

また、担当課長、係長が変わると、連絡会参加メンバーは変わらないにも関わらず、まったく新しい連絡会となってしまい、またふりだしに戻ってしまう。そのため、何年も掛けて連絡会を開催しても、消費者被害の高齢者も減らなければ、見守り体制の充実もなかなかできないなど、会議の効果があまり見られない。そうした意味では、適正な組織になったとしても、中身に対し疑問を感じている。

高齢化が進む中、もっといろいろな課が連携して進めていかなければならないと考えるが、横のつながりが無いために、一つの部署だけでやっているため、なかなか対策もうまくいかないのではないかと感じる。

これらの問題を議論するには、どの項目が妥当か。

[A] 組織の運営の在り方が議論の本質であることから、趣旨は若干違うが「No. 7 各種審議会等」の運用を少し拡大解釈することも考えられる。

[Q] 市民サービスの向上の中に、高齢者問題や連絡会の問題などを含めて広く検証を行うことは可能か。

[A] 市民サービスの向上として、広い範囲から事業を選定し、検証することは可能だが、あらかじめ対象を一つに絞る必要がある。なお、テーマの絞り込みについては、次回委員会の中で検討していただければよい。